

事業の背景 令和3年5月にオープンした市民総合交流センター(キラリエ草津)は、多様な市民活動の展開を支援し、それらの活動の連帯及び市民交流を促進することが設置目的である。特に、5階にある「協働ひろば」については、市の中間支援組織である草津市コミュニティ事業団の事務所と繋がっており、市民活動の拠点としての役割が期待されている空間である。しかしながら、実際には利用者が少なく、5月から8月までの利用団体数は27件(137人)となっている。また、1階ロビーには貸館受付があるのみで、市民交流の施設というには無機質な印象であることが議会から指摘されている。現在5階協働ひろばは、必要最低限の机と椅子を備品として購入し、設置しているフリースペースである。市民活動団体のチラシを掲示するスペースがないため、市立まちづくりセンターにあった衝立を利用して掲示する等の工夫を行っているものの、そのせいで空間が閉鎖的なイメージとなっている。

事業の概要 令和4年度にキラリエ草津の登録団体であるキラリエサポーターや、市内の活動団体と共に、協働ひろばがどのような場所であれば活用されるのか、交流が生まれるのかを検討する予定(しがNPOセンターに委託)。その検討結果を踏まえ、より多くの市民活動団体に利用されるような空間作りを行う。対象範囲は1階ロビーおよび5階協働ひろばとする。

必要性 協働ひろばはキラリエ草津の根幹部分であるが、5階であることもあり、利用が伸び悩んでいる。協働ひろばを利用したソフト事業の展開に加え、気軽に利用しやすい空間デザインを行うことで、市民活動の活性化や市民交流の促進を図ることができる。また、1階ロビーの装飾や展示物については入居者全体で共に検討し、共有することで、入居者同士のつながりを深めるきっかけとなる。

■ **事業内容**
市民活動団体や入居者と検討したイメージに合う空間デザインを実現する

■ **スケジュール**
市民活動団体等と検討を行った後、下半期に委託、実施

現 状



イメージ図



＜令和4年度 当初予算要求額＞
＜歳出予算＞委託料 130万円

くさつラウンドテーブルでは、テーマに沿って参加者がフラットな立場で意見交換を行う場であり、第1回目は『「キラリエ草津」・「協働ひろば」で私たちができること』をテーマに複数の項目について話し合いを行った。

29団体35名の参加者から「協働ひろば」・「エントランス・プロムナード」については下記のような意見があった。



協働ひろば

- ・協働ひろばをもっと広めないといけない。何をする・できる場所か分からない。
- ・5階まではわざわざ来ない。目的が必要。
- ・キラリエ草津に特別用事がなくても過ごせるよう工夫が必要
- ・おしゃべりの場・活動の場・みんなが集まれる場になっていない。
- ・ミーティングスペース等は区切られていてほしい。
- ・入居団体の事務所がオープンすぎて遠慮がちになる。
- ・カフェのような雰囲気でお気軽に過ごせる空間であってほしい。



エントランス・プロムナード

- ・エントランスに人が集まる仕組みが必要。例えばストリートピアノなど。
- ・1階のスペース（プロムナード含めて）を有効活用したい。市内のお店の出店や、キラリエサポーター同士のコラボのブースや活動紹介など。
- ・キラリエには「何かがある」と思わせる場所になる必要がある。入口付近の雰囲気からは感じ取りにくい。
- ・普段から過ごしやすい空間になれば、通行人が立ち止まってくれる。
- ・入り口が分かりにくく、入りにくい印象がある。

参加者の意見からも、協働ひろばがどのような場所でどのように使うのか認知されておらず、人が集まりにくい空間となっている。

1階のエントランス部分は様々な活用が考えられ、賑わいの拠点となるポテンシャルを有しているが、十分に活用できるような雰囲気にはなっていない。



エントランス



プロムナード